

資料室だより 143

ヴリーゲン蔵書 (3)

ルネサンス音楽史関係書籍から、フランドル楽派の作曲家の個人研究を紹介します。

1. Wolfgang Nitschke: Studien zu den Cantus-Firmus-Messen Guillaume Dufays, I, II

Berlin, Merseburger, 1968 (ドイツ語)

ベルリン音楽学研究所でアダム・アドリオが編纂する研究叢書の13巻として出版されています。ギョーム・デュファイ(c1400-1470)のミサ曲におけるカントゥス・フィルムス労作の分析を通じて定量音楽時代の対位法を論じていくものです。ミサ曲は Missa Caput, Missa Se la face ay pale, Missa Ecce ancilla Domini, Missa L'homme arme, Missa Ave regina caelorum が取り上げられています。

2. Johannes Ockeghem; Actes du XLe Colloque international d'etudes humanists

Klincksieck, 1998 (英語、フランス語、ドイツ語)

ヨハネネス・オケゲム(c1410-1497)に関する40回目の国際会議の時の kongress・ペリヒトになります。この時点でのオケゲムに関する最先端の研究動向がわかります。30人の学会報告からなり、ミサ・ミミの問題では日本人研究者、宮崎晴代さんの学説について何度も言及されています。

3. L.G.van Hoorn: Jacob Obrecht, Martinus Nujhoff 1968 (フランス語)

ヤコブ・オブレヒト(c1450-1505)はデュファイとジョスカンの中間に位置するフランドルの作曲家です。日本でも最近では少し演奏されるようになってきましたが、オブレヒトのモノグラフで日本語で読めるものはありません。この書は彼の伝記とともに作品—ミサ29曲、モテット31曲、シャンソン39曲をそれぞれ写本情報と楽曲解説をしたもので、基本的な作品情報が得られる大変有意義なものです。

4. Helmuth Osthoff: Josquin Desprez, I & II, Hans Schneider, 1962 (ドイツ語)

ジョスカン・デ・プレ(c1440-1521)の研究書です。1巻の第1部が生涯と作品の概論、2巻が作品論。ミサ曲を5つのグループに分けて論じています。第2巻は第1巻後半の続きです。史料研究、セクエンツィア・モテット、アンティフォナ・モテット(この言い方はテキストのもともとの典礼ジャンルを示します) マニフィカト、イムヌス、テ・デウム。またテキストの出典—旧約聖書からの作品と新約聖書からの作品に分けて論じています。第2巻の後半は世俗作品を扱っています。

5. Josquin des Prez; Proceeding of the International Josquin Festival

Ed. By Edward E.Lowinsky, London, Oxford Univ. 1976 (英語)

これはニューヨークのリンカーンセンター内、ジュリアード音楽院で開催された国際ジョスカンフェスティバルの学会報告集です。1.伝記的背景、2.源泉史料研究、3.様式と分析、4. ジャンル研究、5.個別研究、6.演奏実践、7.演奏と解釈に関するワークショップ、8.批判的校訂版に関するシンポジウム

ワークショップとシンポジウムは参加者の発言内容もそのまま採録されています。ジョスカン研究には大変刺激的な有用な会議録です。

6. **Frits de Haen: Josquin Des Prez.** Drukkerij Paesen, 1988 (オランダ語)

これもジョスカンの研究書です。1.生涯、2.ミサ曲、3.モテット、4.世俗曲、5.葬送音楽、という内容です。興味深いのは5章で葬送、または追悼のための楽曲だけを取りあげていることです。グレゴリオ聖歌のレクイエムの旋律を用いた有名な、オケゲムの死を悼む挽歌-Nimphes de bois で始まるフランス語の哀悼歌を特別に論じています。

7. **Wolfgang Boetticher: Orlando di Lasso und seine Zeit.1532-1594.** Kassel, Bärenreiter, 1958 (ドイツ語)

オルランドゥス・ラッスス(1532-1594)の包括的な研究書です。20世紀の代表的な音楽学者ベティッヒャーの大著です。ラッススは膨大な作品を残していますのでこの書もかなり大部です。相互参照できる索引も大変充実しています。

8. **Orlandus Lassus en Antwerpen 1554-1556.** Antwerpen, Museum Vleeshuis, 1994 (オランダ語)

アントワープにおけるラッソーという希少な書です。彼は生涯の間様々な土地を転々としておりましたが1554年の終わりころから56年までアントワープに滞在し、同地で楽譜出版もしております。この時期に特化して複数の著者が書いています。また楽譜、人物像を含む図版も豊富です。

9. **Ignace Bossuyt: De componist Alexander Utendal(ca.1543/1545-1581).** Brussel, Paleis der Academien, 1983 (オランダ語)

アレクサンダー・ウテンダル(c1530-40~1581)というフランドルの作曲家の作品研究です。日本ではほとんど名を知られていない作曲家ですが資料室には若干楽譜を所蔵しております。Das Chorwerkの30巻にはジョスカンの作品と共に彼のドイツ語のモテットが所収され、またDenkmaler Deutscher Tonkunst, Jahrgang,138/139には彼の7 Psalmi poenitentiales(7つの懺悔詩編)があります。

(杉本ゆり 記)